

西播の蜻蛉(Ⅰ)アカトンボ属

相坂耕作

はじめに

兵庫県南西部に位置する西播地方は千種川・揖保川・夢前川・市川など大きな河川が流れ、また東播地方程多くはないが池も適当にあり蜻蛉の良い生息地となっている。

筆者は「てんとうむしNo.5」にも少しふれたことがあるがアカトンボの題では必ず触れなければならない詩があるので記してみよう。

夕焼け小焼けの赤とんぼ
負われて見たのはいつの日か
山の畑の桑の実を
小籠につんだはまぼろしか

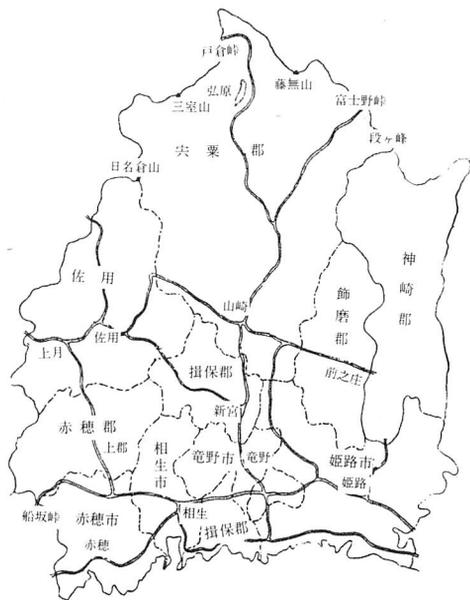
童謡に歌われ、秋の象徴にも歌われる、有名な三木露風作詞のアカトンボの一節である。三木露風が幼ない頃を過ぎた揖保郡竜野町（現在の竜野市）の思い出を北海道で詩ったものである。三木露風の生家は竜野公園付近にあり、また同公園には赤トンボの文学碑が公園の中心をなして立っている。このように竜野市は全国に知られたアカトンボの町である。

この竜野市は西播地方にあり、アカトンボにちなんだ名の商品や建物なども多くあり、アカトンボとは切ってもきれない土地柄なのである。この竜野市を有する西播地方には数多くのアカトンボが生息している。

筆者は今回筆者自身が採集したものを主に手持ちのデータで補足しアカトンボ属のみのリストを作った。

○アカトンボとは

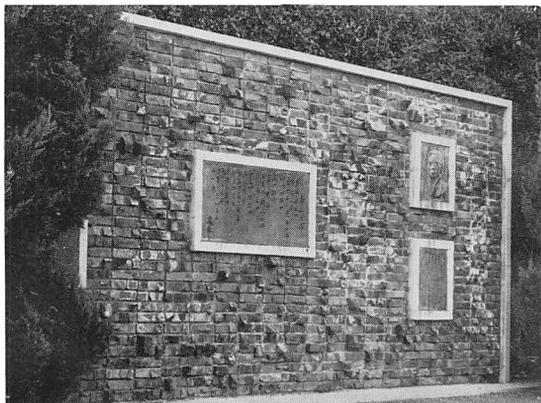
一般的には赤色（茜色）をしたトンボでアカトンボ属（アカネ属）に属する1群で（例外的には赤くないアカトンボもいるが）、日本には21種類記録されており、西播地方にはそのうち16種類が記録されている。しかしタイリクアキアカネは1例のみで実際には15種ということになる。一般にアカトンボに入れられているウスバキトンボ、ハッチョウトンボ、ショウジョウトンボは別の仲間のものである。



○タイリクアカネ *Sympetrum striolatum imitoies*
BAR TENEF

当地方では瀬戸内海の高潮の塩水が入るような池や水溜りに産卵をする。この付近のタイリクアカネは播磨工業地帯の真中において姫路市飾磨区では工場内の廃棄物の池やゴミ捨て場のタマリ水等に産卵している。しかしアキアカネのように避暑をするのか宍粟郡の山中で真夏に採集したこともある。

西播地方では6月中頃より羽化するが未熟な時は翅全体が橙黄色で非常に美しい。採集は11月頃が数多くとれる。



赤トンボ文学碑（竜野公園）

採集例

姫路市飾磨区	2♂2♀	16-XI-1972	Col	相坂
" "	多数	30-X-1973	Col	相坂
宍粟郡波賀町引原	3♂	19-VIII-1973	Col	相坂

○ミヤマアカネ *Sympetrum pedemontanum elatum*
SELYS

このミヤマとは深山の事で深山にいるアカトンボをさすが、これ程名前と事実が違うのは珍しい。西播地方でもせいぜい低山地・田のあぜ等に多くみられるアカトンボである。

採集例

姫路市書写山山腹	1♀	2-VIII-1964	Col	相坂
" "	1♂	1-VIII-1971	Col	相坂
飾磨郡夢前町菅潤谷	1♂	14-IX-1969	Col	相坂
竜野市竜野町の場山	1♂	28-IX-1966	Col	相坂
姫路市林田町奥佐見	1♀	16-VIII-1974	Col	相坂
宍粟郡波賀町道谷	1♀	19-VIII-1972	Col	相坂
相生市東亜カントリー前	1♀	14-VIII-1976	Col	相坂
飾磨郡夢前町みろく寺	2♀	5-IX-1976	Col	相坂
宍粟郡一宮町福知	1♂	22-VIII-1976	Col	相坂
" 波賀町東山	2♀	22-VIII-1976	Col	相坂

○タイリクアカキアカネ *Sympetrum depressiusculum*
SELYS

日本海沿岸しか発見されなかったもので筆者が偶然勤務先の敷地付近の工場内で、海岸から10mくらいのところに静止していたものを採集したものの。

瀬戸内海沿岸ではじめて見つかった記録的なものとなった。しかしそれ以後は発見出来ない。兵庫県下で得られたアカトンボはこの種を含め17種類となった。

採集例

姫路市飾磨区入船町	1♂	28-X-1976	Col	相坂
-----------	----	-----------	-----	----

○アキアカネ *Sympetrum frequens* SELYS

西播磨路の平地では10月頃になるとアキアカネが多く目につき日を追って数を増す。しかし実際には6月頃から発生しており、11月末頃まで現われる。6月頃に播磨平野付近で羽化した、まだ未熟な黄色いアキアカネは知らないうちに発生地より姿を消し山へ入り、山の豊富な小昆虫などをエサにとり避暑をしている。書写山などよく見かける。やがて故郷の平地へ帰り人目につきやすくなる。西播地方のアカトンボの最普通種である。

採集例

姫路市山田町牧野	1♂	15-VIII-1972	Col	相坂
----------	----	--------------	-----	----

姫路市飾磨区入船町	1♀	29-X-1972	Col	相坂
宍粟郡一宮町福知	1♂	14-VIII-1972	Col	相坂
" 波賀町引原	1♂1♀	19-IX-1973	Col	相坂
" 三室山	1♀	30-VII-1976	Col	相坂
揖保郡御津町碓岩	1♀	17-VII-1977	Col	相坂
宍粟郡波賀町赤西	1♂1♀	18-VII-1976	Col	相坂
姫路市林田町奥佐見	1♂	25-VII-1976	Col	相坂
太田池	1♀	23-IX-1976	Col	相坂
姫路市広畑区	2♂	17-X-1976	Col	相坂
宍粟郡波賀町東山	3♂1♀	23-VIII-1976	Col	相坂
神崎郡大河内町砥峰	1♂	23-IX-1976	Col	相坂
姫路市飾磨区英賀保	1♂	27-X-1976	Col	相坂

○ナツアカネ *Sympetrum darwinianum* SELYS

赤く色づいたナツアカネは解熱に利くとされ、最近まで漢方薬店にあったという。アキアカネに比べやや小さく秋には♂では頭の先まで赤く(トウガラシのように)染まってしまう、アキアカネでは頭まで染まらない区別点があるが、大変によく似ており素人にはとても区別出来ない。ナツアカネといっても秋おそく12月上旬頃まで西播地の池や沼付近でみられる。アキアカネ程多くはない。

採集例

飾磨郡夢前町別車	1♂	14-IX-1969	Col	相坂
姫路市山田町牧野	1♂	7-IX-1964	Col	相坂
" 広畑区才	1♂3♀	5-XI-1978	Col	大前
赤穂郡上郡町富満	1♂3♀	30-IX-1975	Col	相坂
姫路市林田町奥佐見	1♂1♀	22-VIII-1976	Col	菅原
宍粟郡波賀町東山	2♂	22-VIII-1976	Col	菅原
赤穂郡上郡町白旗山	1♀	3-X-1976	Col	相坂

○リスアカネ *Sympetrum risirisi* BARTENEF

翅端に黒褐色帯をもつアカトンボで、西播地方ではノシメ型の最普通種である。

採集例

姫路市山田町牧野	1♂1♀	15-VIII-1972	Col	相坂
" 林田町奥佐見	2♂	29-IX-1974	Col	相坂
" " "	2♂	16-VIII-1974	Col	相坂
竜野市の場山	2♂	16-VIII-1972	Col	相坂
飾磨郡夢前町別車	1♂	14-IX-1969	Col	相坂
宍粟郡一宮町福知	1♂	16-VIII-1972	Col	相坂
揖保郡御津町黒崎	1♂	8-VIII-1976	Col	相坂
" " "	1♂	14-VIII-1976	Col	相坂
竜野市揖西町小太丸	1♂	10-IX-1975	Col	相坂
揖保郡御津町碓岩	1♂	21-VIII-1976	Col	菅原

○ノシメトンボ *Sympetrum infuscatum* SELYS

翅端に黒褐色帯をもつアカトンボのうちの最大種であり、西播地方でも林間で普通に見られる。

採集例

竜野市竜野町の場山	1♀	28-IX-1966	Col	相坂
飾磨郡夢前町別車	1♀	21-IX-1969	Col	相坂
相生市矢野町三濃山	1♂1♀	21-IX-1969	Col	相坂
姫路市山田町牧野	1♂	16-IX-1973	Col	相坂
" 書写山	1♀	17-IX-1974	Col	相坂
" 飾磨区入船町	4♂	15-X-1974	Col	相坂
" 林田町奥佐見	1♂	16-VIII-1974	Col	相坂
相生市小河	1♂	11-IX-1971	Col	米村
赤穂郡上郡町富満	1♂	30-IX-1975	Col	相坂
揖保郡御津町碓岩	1♂	3-X-1976	Col	相坂

○コノシメトンボ *Sympetrum baccha matutinum* RIS
ノシメトンボよりやや小さく翅端に黒褐色帯をもつアカトンボで西播地方では比較の数が少ないと思われる。

採集例

姫路市山田町牧野	1♂	11-VIII-1974	Col	相坂
" 谷内町見崎	5♂2♀	12-X-1961	Col	東
揖保郡御津町碓岩	1♂	3-X-1976	Col	相坂
相生市古池	飼育		Col	米村

○マイコアカネ *Sympetrum kunckeli* SELYS

西播地方一帯に広く分布しているアカトンボであり名前の「マイコ」とは顔の白さを京の舞妓の項(うなじ)の白さに見立てて名付けられたものという。事実マイコアカネの顔は青白い。西播地方での個体数は少いようである。

採集例

姫路市飾磨区入船町	1♀	4-VIII-1972	Col	相坂
" 山田町牧野	1♂1♀	15-VIII-1972	Col	相坂
揖保郡御津町碓岩	1♀	21-VIII-1976	Col	相坂
" " "	1♀	15-IX-1976	Col	相坂
相生市池の内	1♂	7-VII-1981	Col	米村

○マユタテアカネ *Sympetrum kunckeli* SELYS

マユタテアカネという名前は顔面の黄色の部分に細い黒条(マユ)がタテに入っており、この眉状紋に由来したものであり、西播地方各地ではアキアカネ同様に最普通種である。♀は2型あり普通は翅が透明であるが先端に褐色帯を有するものもある。

採集例

姫路市山田町牧野	1♀	16-IX-1972	Col	相坂
" 飾磨区入船町	1♂2♀	4-VIII-1972	Col	相坂
竜野市竜野公園	2♂	30-IX-1975	Col	相坂
赤穂郡上郡町富満	1♂2♀	30-IX-1975	Col	相坂
揖保郡御津町碓岩	1♂	8-VIII-1976	Col	相坂
竜野市揖西町小太丸	1♂	10-IX-1975	Col	相坂
宍粟郡一宮町福知	1♂	22-VIII-1976	Col	相坂
揖保郡御津町碓岩	2♂	15-IX-1976	Col	相坂
姫路市林田町奥佐見	1♂	17-X-1976	Col	相坂
神崎郡大河内町太田池	1♀	23-IX-1976	Col	相坂
" " 砥峰	1♂	15-IX-1976	Col	相坂

○ヒメアカネ *Sympetrum parvulum* BARTENEF

マユタテアカネをひとまわり小さくした様な種類である。我国で産するアカトンボ中最も小さいアカトンボである。この「ヒメ」とは姫(可愛らしい)もしくは小さいという意味である。このアカトンボは全国的にみれば珍しく、いずれの地にも少ないのではあるが西播磨地方には水田や山里ときには高い山の湿地にまで生活しており特異なトンボであると思う。

採集例

揖保郡揖保川町大門	多数	3-IX-1972	Col	相坂
相生市三濃山	2♂2♀	24-IX-1972	Col	相坂
姫路市山田町牧野	2♂	15-VIII-1972	Col	相坂
" " "	1♂	1-X-1972	Col	相坂
赤穂郡上郡町富満	1♀	30-IX-1975	Col	相坂
宍粟郡波賀町東山	1♂2♀	23-VIII-1976	Col	相坂
神崎郡大河内町太田池	2♂1♀	23-IX-1976	Col	相坂
揖保郡御津町黒崎	4♂1♀	4-X-1976	Col	相坂

○マダラナニワトンボ *Sympetrum maculatum* Ogyma

全国的には分布の局限する稀種ではあるが、西播地区には局地的に産地があり、産地では多産する。次種のナニワトンボと同様赤くならないアカトンボである。

採集例

姫路市山田町牧野	3♂2♀	15-VIII-1972	Col	相坂
" 余部区飾西長池				" 東
" 林田町伊勢				" 東

○ナニワトンボ

赤くないアカトンボであり♂は特に黒っぽい青灰色をしている。ナニワとは浪花つまり大阪の意味で日本

の関西付近を中心に生活しているアカトンボである。西播地区では局地的に産地があり産地では多産している。

採集例

姫路市豊富町太尾	1♂	23-VIII-1965	Col	相坂
〃 山田町藤の木山	2♂	9-IX-1979	Col	大前
飾磨郡夢前町	1♂	1-IX-1972	Col	相坂
相生市三濃山	2♂	10-X-1972	Col	尾崎
〃 古池	1♂	15-IX-1981	Col	米村
姫路市林田町奥佐見	1♂	24-IX-1975	Col	相坂
揖保郡御津町黒崎	2♂	14-VIII-1976	Col	相坂
竜野市揖西町小太丸	1♂	10-IX-1975	Col	相坂

○ネキトンボ *Sympetrum speciosum speciosum* OGUMA

翅の基部が広くあざやかな橙赤色をした美しいアカトンボでやや大型であり珍しく三拍子そろったアカトンボである。西播地方では広く生息しているが、どの地域でも数少ない。

採集例

姫路市山田町牧野	1♂	15-VIII-1972	Col	相坂
〃 書写山	1♂	17-IX-1974	Col	相坂
〃 〃	1♂	24-VII-1975	Col	相坂
〃 林田町奥佐見	1♂	24-IX-1975	Col	相坂
揖保郡御津町碓岩	1♀	8-VIII-1972	Col	相坂

○キトンボ *Sympetrum croceolum* SELYS

橙色の翅をもつ美しいアカトンボで池沼や溜め池などに生息し、当地方では6月下旬くらいから羽化して水域から少し離れた林に生息している。西播地方各地で見られるが個体数は少ない。

採集例

飾磨郡夢前町別車	1♀	1-IX-1972	Col	相坂
姫路市広峰山	1♂	30-VIII-1975	Col	相坂
相生市矢野町	1♂	30-IX-1975	Col	相坂
揖保郡御津町黒崎	1♂	11-X-1976	Col	相坂
姫路市林田町奥佐見	1♂	16-VIII-1975	Col	相坂
〃 〃 〃	1♀	17-X-1976	Col	相坂

○オオキトンボ *Sympetrum uniforme* SELYS

翅全体が橙黄色で美しいアカトンボで、アカトンボの最大種である。最近日本のどの地方でもほとんど見られなくなり、まぼろしのトンボになってきている。

現実に筆者の所蔵標本中にも僅か姫路市産が一頭で

10年以上も前の標本である。その後も得られていない様子であるが相生市付近にいるのは幸いである。

東播地方では青野ヶ原や加西市には比較的生息しているようだが西播地方では稀種となる。

採集例

姫路市山田町牧野	1♀	1-VII-1965	Col	相坂
相生市東亜カントリー前	2♂	30-IX-1975	Col	相坂

○異種間連結のアカトンボ

西播地方に於いてアカトンボの異種間連結をしていたアカトンボを採集しているので一応記しておく。

Sympetrum striolatum imitoides BARTENEF タイクアカネ♂・*Sympetrum frepuens* SELYS アキアカネ♀

1974年10月14日姫路市飾磨区入船町の工場内の池において交尾形態のまま飛翔しているタイクアカネを発見し、工場の引込線のレール上に静止した。またすぐ飛翔しゆっくりと池の周囲へいったが、打水産卵の行動には至らず採集した。採集時はタイクアカネの♂と♀と思っていたが、♀はアキアカネであった。

○アカトンボ属のまとめ

以上にて西播地方の蜻蛉1としてアカトンボ属をまとめてみたが、今後西播地方で採集される可能性のある種を掲げようと思ったが、まずない様である。しかし極めて少ないがタイクアカネが採れた事例からオナガアカネのみ可能性がないとはいえないと思われる。逆に消えるおそれのあるアカトンボは多くある。まず偶産のタイクアカネ採集地の環境は変わり今は化学工場のタンクが立ち有機ガスが出ているのでまず無理、ついでオオキトンボも近年には消えそうである。そして水田の近くにいるヒメアカネ等は農薬による薬害により心配である。何といたってもトンボの生活はヤゴという名の水中生活をしており水が枯れた時水質が農薬などにより悪化した場合。また最近播磨地方の各地でよく行われる松クイムシ駆除のため、空からのヘリコプターによるスミチオン乳剤等の散布は一網打碁に蜻蛉のエサや益虫まで殺してしまう。土地開発による環境変化等々役人仕事が増えつつある現在、私たちがいま普通に見ているアカトンボですら、いずれ絶滅の危機になるおそれが充分にある。三木露風のアカトンボの詩がいつまでもうたえるような環境を保たれることを願いながら結びと致します。

尚本稿を草するにあたり資料の提供や有益な御助言を賜った大前晋・菅原昭夫・三木安貞・米村和繁・尾崎勇の諸氏に深くお礼申し上げます。

参考文献

関西蜻蛉談話会(1977)近畿地方の蜻蛉トンボ科
相坂耕作(1977)アカトンボ・風物誌(161)山陽ニュース
大前 晋(1979)夢前川下流周辺の蜻蛉相 市立科学館
資料
相坂耕作(1980)姫路市の昆虫 てんとうむしNo.6

(S.05 : Kousaku Aisaka 姫路市)

12月に羽化したシルビアジジミについて

広畑 政 己

本種は幼虫越冬をするということは周知の通りであるが、4月下旬に1化の個体が発生してから晩秋までだらだらと発生が続くので、冬を迎える時点では様々な形態であろうと思われる。

このように決った越冬形態を持たない種は、越冬できる形態で冬を迎えた個体だけが生き残るものと思われる。そして本種の場合は幼虫という形態が最も適しているようである。しかし、県下に於て4月9日という早い記録もあるので、この記録などは蛹越冬を示唆するものとして注目していた。もしかすると蛹で越冬するのではないかと思ひ、野外にて実験を行ったが、結局越冬させることはできなかった。

この蛹は上郡町上赤松産の2頭の蛹で、10月29日に蛹化したので野外で放置していたところ、12月21日に翅の縮んだ1♂が羽化していた。もう1頭の蛹は、1月中旬まで生きていたが、その後黒く変色をして、羽化には至っていない。

12月に入ると最低気温が0℃以下の日も多く、羽化した個体は0℃以下の日を7日も経験したことになり、蛹でもかなりの耐寒性があるようである。

1980年の12月は、1日から12日までは最高気温が10.3℃～17.1℃と高く、16日から19日までも10.7℃～12.7℃と10℃を上まわっている。羽化した個体は10月28日に蛹化した後、11月12日と経過する間に、羽化に必要な温量が累積され、羽化したものと思われるが蛹の耐寒性や羽化と温度との関係など参考になればと報告した。

(S.28 : MASAMI HIROHATA 姫路市)

カラスザンショウを 食べるキアゲハ

唐 士 洋 一

1981年10月のこと、キアゲハの終令幼虫をつけた、バセリとミヤマカラスアゲハの若令幼虫をつけたカラスザンショウとを、都合により飼育ケースに雑居させていたところ、バセリの葉がまだ残っているにもかかわらず、キアゲハの幼虫の一部がカラスザンショウを食べているのではないか。

カラスザンショウはミカン科の植物でもあり、代用食として使えるのではと思ひ、さっそく野外にてニンジンについていた若令幼虫を採集してき、カラスザンショウにつけてみたところ同じく食べ始めたではないか。ミカン科のキハダにつくことがあるとは聞いていたが、カラスザンショウを食べるとは思ってもみなかったので、おどろくことしかり、試みに①キハダ、カラスザンショウとを同一ケースに入れてみたところ、キハダを食べないでカラスザンショウのみを食べていた。

②若令幼虫からカラスザンショウを食べさせ途中でバセリを入れてやった場合、バセリを食べない傾向にあった。現在、そのまま発育成長してサナギになっている。どんな成虫が羽化してくるか楽しみである。

なお今回の試みはわずか数例ではあるが、全ステージカラスザンショウでも飼育可能であることを確認したので報告しておく。



写真・カラスザンショウを食べている幼虫

(S.18 : Morokoshi Youichi 相生市)